

第5回 TOBIRA 研究助成とびら賞

第5回 TOBIRA 研究助成とびら賞は、下記の6題に決定いたしました。
優秀賞の演題については次号より、更に詳しい内容を発表を誌面上にて掲載します。

成人T細胞白血病・リンパ腫発症リスク 評価・判定法の開発

齋藤 益満

国立感染症研究所
血液・安全性研究部



【研究概要】

ヒトT細胞白血病ウイルス1型は成人T細胞白血病・リンパ腫発症原因ウイルスであるが、ウイルスゲノム変異が発症の引き金となることを明らかにした。今後、発症リスク評価・判定法を開発から早期診断を目指す。

抗菌薬耐性菌の出現と蔓延を抑制する 微生物診断法の臨床開発

片山 由紀

順天堂大学医学部
微生物学講座



【研究概要】

難治性 MRSA 感染症において新規高度薬剤耐性「slow-VISA」を見だし、再燃感染症と治療失敗の関与の可能性を報告し、1) 国内医療施設で高頻度に検出、2) MRSA 治療ガイドライン 2017 に初めて掲載され、現在、新規検出方法を開発している。

デジタルホログラフィーによる多次元 イメージング技術

的場 修

神戸大学大学院
システム情報学研究科



【研究概要】

3次元空間を対象とした位相情報及び複数蛍光観察による細胞や核の構造変化、状態変化をリアルタイムかつ同時に観察可能な次世代光学顕微鏡を紹介する。

新たに同定した膵癌診断マーカーの 前向き臨床試験

谷内 恵介

高知大学医学部
消化器内科



【研究概要】

Case-control study にて、膵癌診断マーカー CA19-9 に比較して診断性能が勝っている蛋白質を同定した。前向き臨床試験にて早期膵癌に対する診断性能を検証している。

超薄膜がもたらす婦人科系腫瘍マーカーの 多項目同時・蛍光増強イムノアッセイ

安田 充

関西学院大学
理工学部



【研究概要】

Ag 基板上に Al₂O₃ の超薄膜を形成したナノ薄膜干渉基板では、一般的なガラス基板に比較し、蛍光が 100 倍以上増強する。本研究ではこの基板を用いた新たに低コスト・高感度・多項目癌診断技術の創出を目指す。

薬物治療のためのオンチップバイオマ ーカー解析システム開発

奥野 貴士

山形大学
理学部



【研究概要】

本研究では、1つ1つの細胞をマイクロ流路内でマニピュレートし、ハイスループットに生体膜中の膜タンパク質等のバイオマーカーの精製・解析をオンチップ上で可能とするシステムを開発する。



第7回研究交流フォーラム 2018.5.11 開催予定
E-mail: info@tobira.tokyo
URL: <http://www.tobira.tokyo/>
TEL: 03-6380-9530

産・官・学・医の連携を